

歴博ぐらしの植物苑だより

ぐらしの植物苑観察会 ぐらしの植物苑東屋 13:30から

第119回 1月24日(土) 『武蔵野の平地林の保全』 犬井 正(独協大学)

第120回 2月28日(土) 『ブナ林と木地屋の世界』 中川重年(本館客員教授)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

冬の華・サザンカ展 開催中

ハサザンカ群が咲き始めてきました。ハルサザンカ群はいまままでのサザンカ群やカンツバキ群とは違い、花色の縦絞り、落花時に花弁と雄蕊が互いについて散る(ヤブツバキのように)ものがあります。葉脈も品種によっては明瞭にみられます。昨年来のテーマである佐倉市とサザンカの関わりは、明治の初め佐倉市の恩田さんという方がサザンカ群やハルサザンカ群を栽培していたこと、ハルサザンカの大木が佐倉市に見られることなどから、『日渉園茶梅譜』(1885年)が恩田さんの栽培されていたリストではないか(冬の華・サザンカ:国立歴史民俗博物館刊)と探索したものです。探索状況はぐらしの植物苑東屋にパネル展示しています。

『日渉園茶梅譜』に出てくるサザンカ紹介しましょう。



銀竜



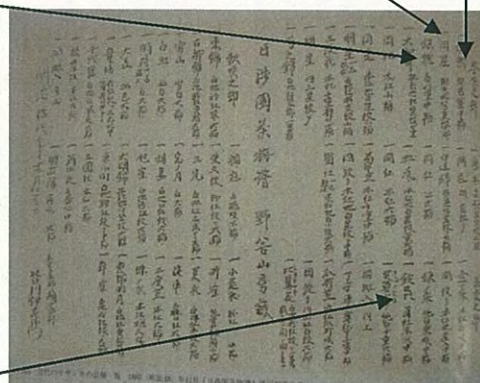
星飛竜



飛竜



鈴蟲(金花山)



苑内のあるお正月に関する植物

サカキは冬芽の先端が鎌のように曲がっていて、邪気を寄せ付けないものとして神社の境内によく栽培されています。

神：賢木ともいわれ、シキミやナンテンをサカキと呼ぶ地方もあります。神事に用いる常緑樹の総称です。



ユズリハです。縁起物として正月の飾りにつかわれます。古名はユズルハ、新葉が出てから古い葉がおちるので代を譲る。九州では葉柄の部分から鶴葉とも言われます。

冬の植物苑は今の時期しか見られないお楽しみがたくさんあります。

その1つ樹皮（木の模様）



アカマツ
(マツ科マツ属)



コウヤマキ
(コウヤマキ科コウヤマキ属)



ユズリハ
(ユズリハ科ユズリハ属)



カキ
(カキノキ科カキノキ属)



カラタチ
(ミカン科カラタチ属)



キハダ
(ミカン科キハダ属)